

トビイロケアリ(?)の雄アリ

この間から雄アリと雌アリを色々調べていて、トビイロケアリかなというところまで達したのですが、その時調べたことを忘れないようにまとめておくことにしました。まだまだ怪しい話なので、そのつもりで見てください。今日は



まず雄アリからです。

対象とするのはこのアリで、体長は約4mm。7月7〜10日くらいに大量に我がマンションに押し寄せてきました。一体なんだろうと思って調べ始めたのがきっかけです。

Fig. 1は実体顕微鏡で撮った横からの写真です。腹部末端が複雑な形状をしています。これが雄アリの特徴です。雄アリについては「日本産アリ類画像データベース」に属までの検索表が載っています。そこで、それに従って調べていきたいと思えます。

まず、亜科への検索です。全部を書くとは大変なので、このアリがヤマアリ亜科であることを知って、その部分だけ下の表に抜粋して書いてみました。従って、①〜⑥の条件が満足されれば、ヤマアリ亜科ということになります。これを写真で確かめていきたいと思えます。

①は大顎が頭長より短いということですが、Fig. 2で分かると思います。大顎が頭長より短

いのは自明ですね。でも、実は頭長をどこからどこまで測ればよいかよく分かりませんでした。この写真の範囲だと頭頂から頭盾の先端までかなと思いますが、それならば頭幅が頭長の2倍にはとてもなりません。ということ①は

亜科への検索(雄アリ)

- ①大顎は頭長より短い: 頭幅は頭長の2倍に達しない
- ②頭部正面から見て、額隆起縁は不明瞭、もしくは後方に向かって広がる、もしくは左右の触角挿入部の間で水平に交わる: ほとんどの場合、亜生殖板末端の突起は1つで、まれに3つ以上
- ③腹柄節は1節
- ④側面からみて触角挿入部は大あごとは離れたところに位置する: 頭盾は消失しない: ほとんどの場合額隆起縁をもつ
- ⑤大顎は縮小またはそしゃく縁の歯は相対的に粗い: 背方からみた腹柄節は横に広がらない
- ⑥腹部第2節前板 (presclerites of second gastral segment) は腹部第1節に覆われて隠れる: 楯板小楯板線は単純

ヤマアリ亜科



Fig. 1

OKです。②の額隆起線も上の写真にかすかに見えている部分がそうかなと思いますが、はっきりとは分かりません。いづれにしても、不明瞭です。亜生殖板はFig. 3で分かります。これは腹部末端を腹側から写したものです。亜生殖板というのは、この間まで subgenital plate と書いていた部分です。中央が膨れているのが突起かなと思いますが、これもはっきり

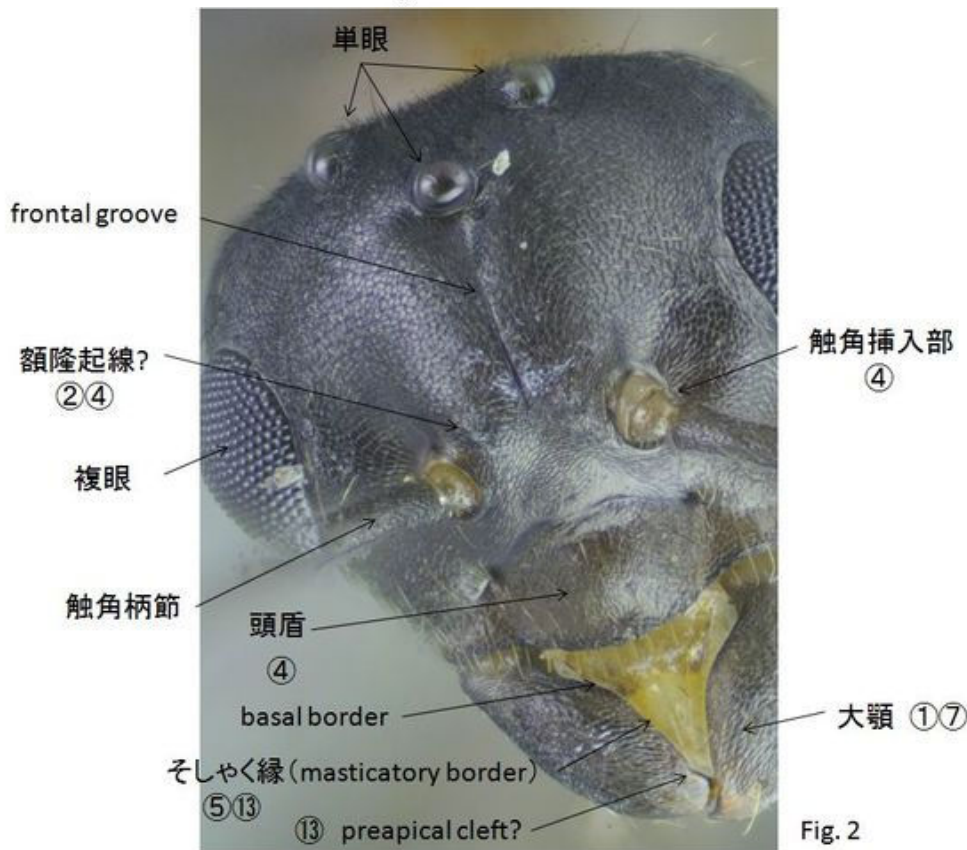


Fig. 2

しません。でも、とりあえず、②はOKとします。③の腹柄節はFig. 1を見ると1節であることが分かります。④はFig. 2を見ると、触角挿入口と大顎が離れていること、頭盾があること、額隆起線がありそうなことは分かります。⑤の大顎のそしゃく縁はFig. 2を見ると分か

ります。粗い歯があります。次の文は何を意味しているのかは分かりませんでした。⑥はFig. 1に示す通りです。最後の盾板小盾板線は中胸を上から見た時の模様なのですが、特にありませんでした。ということ、ヤマアリ亜科になりました。

ヤマアリ亜科の属への検索(雄アリ)

- ⑦ 頭部正面から見て、大顎は鎌状ではない。体色は二色性を示さない。
- ⑧ 触角は13節
- ⑨ 中胸側板表面には鱗状の彫刻がある。触角柄節は長いまたは短い
- ⑩ 前伸腹節の気門はほぼ円形
- ⑪ 後胸側腺の開口部は明瞭で、その周辺には密な毛がある。クサアリ亜属を除くケアリ属

次は属への検索です。これもケアリ属になることを知って、その部分だけを抜粋しています。⑦の大顎については鎌状といわれるものではないありません。⑧の触角の節数はFig. 1で数えると分かりますが、13節です。

⑨の中胸側板表面はFig. 4を見て下さい。これが鱗状というのでしょね。⑩の前伸腹節気門

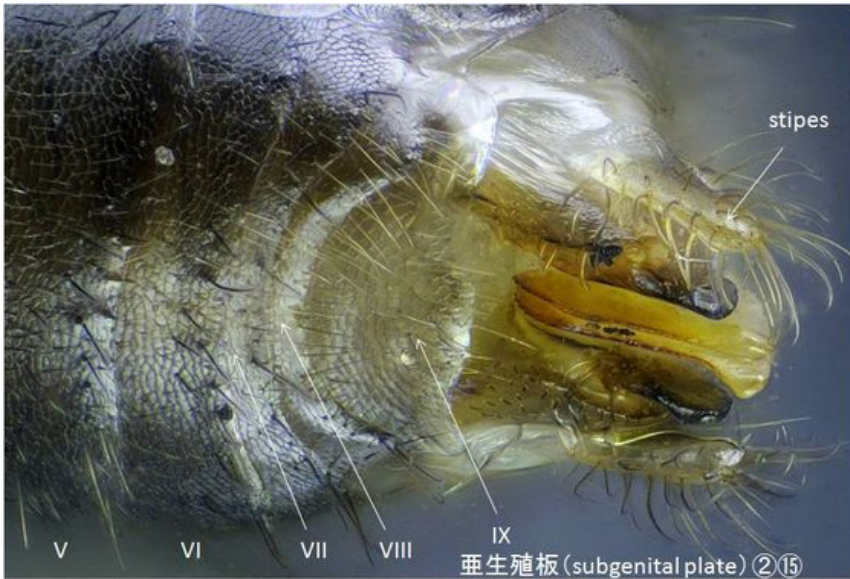


Fig. 3

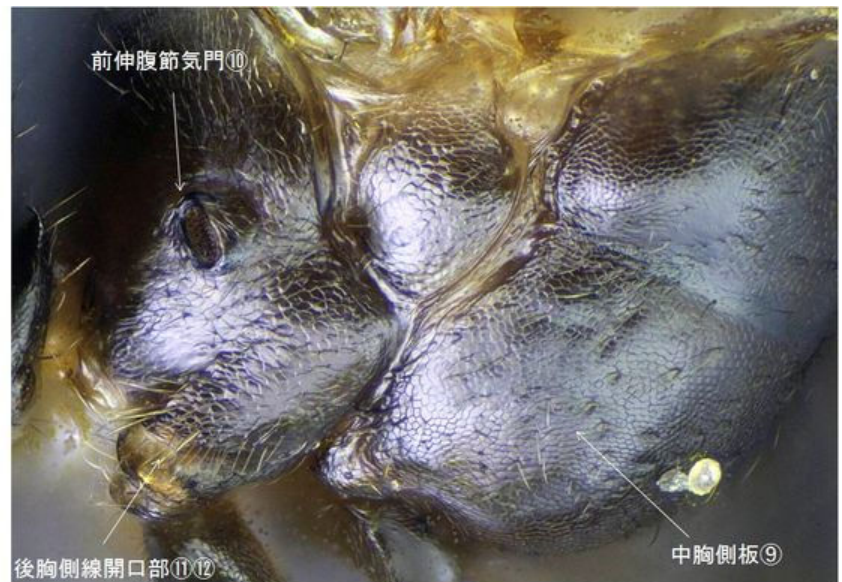


Fig. 4

が円形かどうかはいつも問題になるのですが、この写真のは、たぶん、ほぼ円形というのでしょね。これが違っていると違った方向に進んでしましますが・・・最後の⑩は後胸側線の開口部ですが、下に大きな穴が合っています。これは殺菌に役立つと書かれた論文がありました。いずれにしても、明瞭な穴があります。ということでもケアリ属になりました。

ケアリ属の亜属・種への検索(雄アリ)

- ⑫後胸側線の開口部は前胸背板の気門より大きく、保護のための毛を具える
- ⑬大顎は先端近く(preapical)の裂け目(cleft)を欠き、基部の角(basal angle)は常に広く丸まっ
ていて、そしゃく縁(masticatory border)は徐々に曲がって基部縁(basal border)になる
ケアリ亜属
カワラケアリ
- ⑭SIは100を超える
- ⑭' SIは80以下
- ⑮腹柄節は高く薄く、上に行くに従ってほとんど直線的に狭まる; subgenital plateの後縁は
凸になる; 頭部は後頭部が広がる
トビイロケアリ、ハヤシケアリ
- ⑮' 腹柄節は低く厚く、先端に向かって丸く狭まる; subgenital plateの後縁はほとんど直線
的; 頭部は後頭部が丸くなる
カワラケアリ

SI: 柄節指数 (scape index) の略で、触角柄節長(基部の環節球は除く)の頭幅に対する比で、柄節長/頭幅×100で表される

種への検索表は次の論文のものを使います。

K. Yamauchi, "Taxonomical and Ecological Studies on the Ant Genus *Lasius* in Jpana

(Hymenoptera: Formicidae). I. Taxonomy",
 Sci. Rep. Fac. Educ. Gifu Univ. (Nat. Sci.) 6,
 147 (1978).

また、必要な部分だけを抜粋して書くことには
 ます。ただ、原文は英文で、私のつたない語学
 力で訳しているのです、そのつもりで見てくださ



Fig. 5

い。⑭は後胸側腺開口部が気門より大きいとい
 うことですが、これはたぶんそうでしょう。ま
 た、Fig. 4 に示すように、その周りに毛を具え
 ています。⑬は訳があまりよくないので私自身
 もよく分かりません。でも、Fig. 2 の大顎の形
 状を示しているのだと思います。次の⑭は次の
 写真の通りです。



Fig. 6

これは等倍率で撮影した2枚の写真を比較す
 ることで、頭幅と触角柄節の長さを比較してい
 ます。SI というのは上に説明を入れましたが、
 柄節の長さ、頭幅を100倍したものです。この
 場合は70になり、⑭の方を選ぶことになりま
 す。次の腹柄節はFig. 1に示すとおりですが、

これが高いのか低いのかはよく分か
 りません。ただ、直線的に狭まって
 いる感じです。また、亜生殖板
 (subgenital plate) の後縁は凸になっ
 ていることは確かです。従って、ト
 ビイロケアリかハヤシケアリになり
 ました。ここで、手詰まりになるの
 ですが、ハヤシケアリとは雌アリの
 色から違々と判定しました。また、
 これには載っていないヒメトビイロ
 ケアリとは次の論文に従って、触角
 柄節の立毛の数から違々と判定しま
 した。

K. Yamauchi and K. Hayashida,
 "Taxonomic Studies on the Genus
 Lasius in Hokkaido, with
 Ethological and Ecological Notes
 (Formicidae, Hymenoptera). II.
 The Subgenus Lasius", J. Fac. Sci.

Hokkaido Univ. VI. Zoology 17, 50 (1970).

腹部末端と触角の柄節の写真をFig. 6と7に載せておきます。Wilsonの論文では立毛は真上に立った90度のものから45度傾いたものまでを呼ぶことになっているのですが、その意味では立毛はありそうです。ということで、トビイロ

ケアリにしたのですが、まだまだ怪しさいっぱいの状態です。

次回、もっと怪しい雌アリの検索についても書いてみますので、それと比較しながらもう一度見ていきたいと思っています。(2015.7.17 記)



Fig. 7